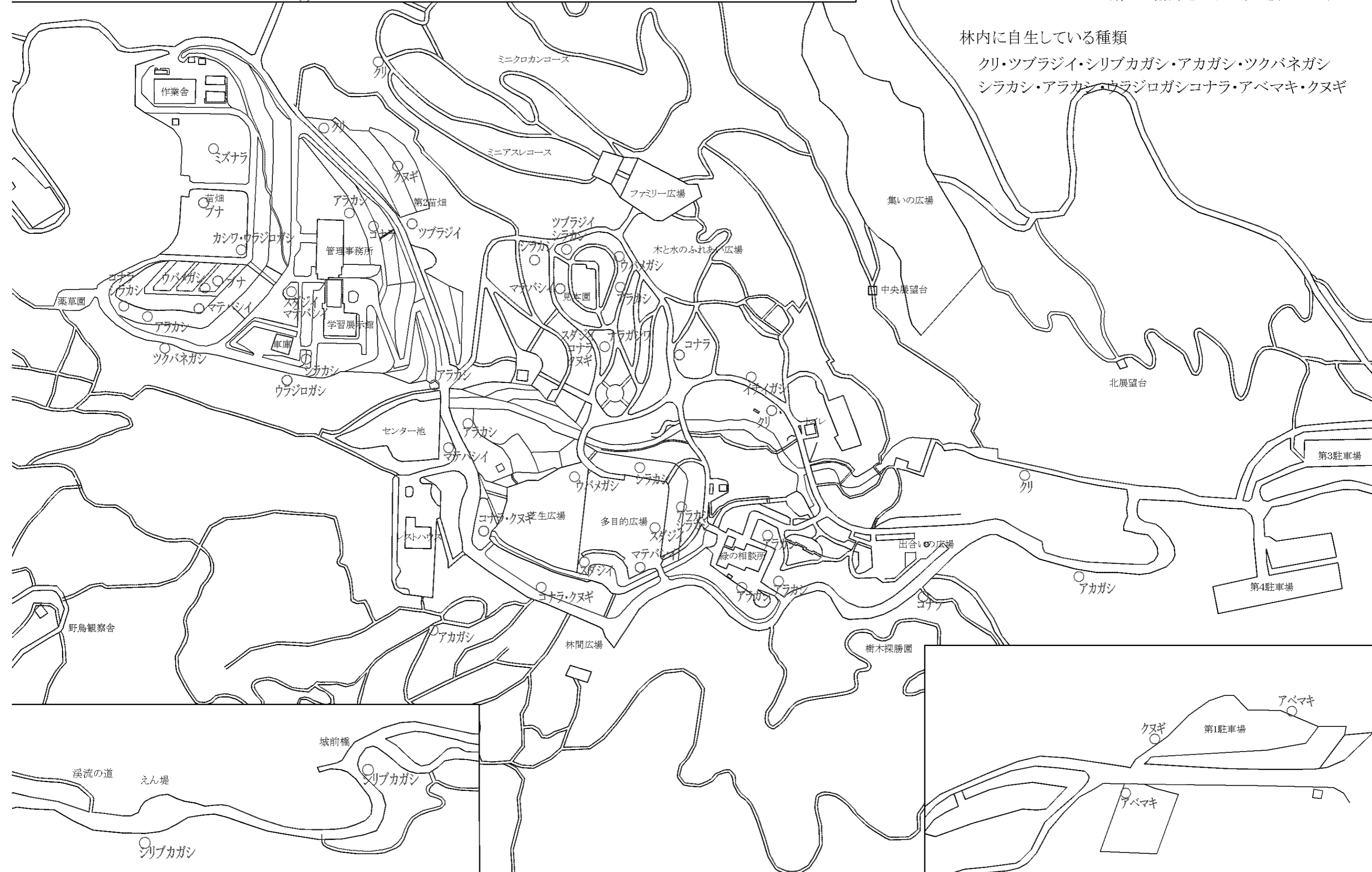


# 広島県緑化センター ブナ科位置図(どんぐりマップ)

植物などの採取は禁止されています  
ご理解とご協力をよろしくお願いいたします

林内に自生している種類

クリ・ツブラジイ・シリブカガシ・アカガシ・ツクバネガシ  
シラカシ・アラカシ・ウラジロガシコナラ・アベマキ・クヌギ



ブナ科樹木一覧表(どんぐり)

番号	広島県自生	センター内	名称	科名	属名	生活史	実の熟す期間	殻斗	どんぐり	特徴		
1	○	○	ブナ	ブナ	ブナ	落葉樹	1年	袋状	割れた殻斗から堅果が2個	5~7年周期で大豊作になる。種子生産の少ない年をつくり、実を食べる昆虫や小動物の密度を減少させ、豊作年に動物が食べきれない種子を作ることで子孫を増やす。葉の側脈は7~11対。		
2	○	イヌブナ	長い果柄にぶら下がる						ブナより低い山地に見られる。材質がブナより悪いのでイヌブナと呼ばれる。ブナの樹皮より黒っぽいぼ状の皮目が多い。ひこばえを沢山出し、葉の側脈が多く(10~14対)果実がぶら下がる。			
3	○	○	クヌギ				コナラ亜属	2年	ひも状の突起	直径2~3cm 丸い	樹皮は縦に厚く不規則に深く割れる。葉の縁には波状の鋸歯があり、鋸歯の先端部が2~3mmの針になる。葉裏は緑色で無毛かあるいは微毛。花や葉はアベマキに似ている。萌芽力が高い。	
4	○	○	アベマキ							直径2~3cm 丸い	樹皮はコルク層がよく発達し縦に深く割れる。花や葉はクヌギに似ているが、葉裏は星状毛に覆われているので、灰白色である。樹皮からコルクをとるために植えられた。別名:コルククヌギとも言う。	
5	○	○	カシワ							1.5~2cmの卵球形	葉は柏餅を包むことで有名。長さ10~30cm、幅6~18cmで縁に深い波状鋸歯があり葉柄はごく短い。葉裏は、淡褐色の短毛と星状毛が密生しやや灰白色。冬、枯れた葉がいつまでも枝に残る。	
6	○	○	ミズナラ						1年	瓦重ね状	2~3cmの長楕円形	葉は長さ7~15cm、幅5~8cmとカシワより小型で質は薄い。葉柄はほとんどなく目立たない。葉裏は緑色で脈上のみ有毛。材に水分が多く、燃えにくいことから水楢。ドングリはリスやクマの好物。
7	○	○	コナラ								1.5~2.2cmの長楕円形	樹皮は灰褐色で縦に不規則に長く割れる。葉の先端は鋭くとがり。ふちには大形のとがった鋸歯がある。表面は緑色、裏面は星状毛と絹毛が生え灰白色。若葉はコバルト
8	○	○	ナラカシワ								約2cmの楕円形	葉は10~30cmで先端は鋭くとがり、ふちは粗い大きな鋸歯がある。葉裏は灰白色で、星状毛が密生する。葉はミズナラやカシワに似ているが、葉柄が1~3cmと長い。
9	○	○	ウバメガシ								1~2cmの楕円形	材はかたく炭の最高級品といわれる備長炭の原料。葉は革質で表面は光沢があり裏面は淡緑色。葉の上半分に浅い鋸歯がまばらにある。暖地の海岸近くの山地で自生している。
10	○	○	アカガシ						コナラ	2年	同心円状	1~2cmの卵球形
11	○	○	ツクバネガシ		1.5~2cmの卵球形	葉は枝先に集まってつき、かたい皮質で上半分にかすかに鋸歯があり、葉柄は0.4~1.2cmとアカガシより短い。樹皮は灰黒緑色で縦に割れ目が入る。黒褐色もある。						
12	○	○	オオツクバネガシ			オオツクバネガシの分布域は狭く、珍しい種類。葉の形から、アカガシとツクバネガシの雑種と考えられている。広島市安佐北区大林の峠八幡宮の木は大きく、広島市の天然記念物に指定されている。						
13			ハナガガシ		1.5cmの倒卵状楕円形	四国や九州の一部に自生し個体数が少ないので、環境庁の絶滅危惧種に指定されている。冬芽は細く、先端が鋭くとがるのが特徴。葉の先端は鋭くとがり、上半部のふちに鋸歯がある。						
14	○	○	ウラジロガシ		1.2~2cmの広卵形	葉裏は、ロウ物質の分泌により、粉白色を帯びているのが特徴。鋸歯がすどく、縁は大きく波打つ。葉は腎臓の民間薬として利用されることがある。樹皮はタンニンを含む。						
15			オキナワウラジロガシ		2~3.5cmの球形	鹿児島県の奄美大島や徳之島、沖縄県に分布。ドングリが非常に大きく、大きいもので高さ、直径とも4cmにもなる。別名はヤエヤマガシと言われる。						
16	○	○	アラカシ		アカガシ亜属	1年	同心円状	1.5~2cmの卵球形	県内に自生するカンの代表樹で、広島県で行われた全国植樹祭において昭和天皇が植樹された樹。葉は革質で、先端は鋭くとがり、上半部には大形の鋸歯がある。生垣として切り詰めて利用したものを棒ガシと呼ぶ。			
17	○	○	シラカシ					1.5~1.8cmの卵形	葉はやや革質で、先端は鋭くとがり、上部から2/3以上に浅くてやや鋭い鋸歯がまばらにある。ウラジロガシの葉に似ているが葉裏は灰緑色である。材は淡い紅褐色であるが、アカガシに比べて色が淡いのでシラカシ。			
18	△	○	イチイガシ					1~2cmの卵球形	名前は、「神聖な木」という意味の齋櫨(いちかし)がなまるとされるほか、「よく燃える木」という意味の最(いち)火(び)櫨(かし)からきたと言われている。ドングリは渋みがなく、食用にできる。葉の上半部に鋭い鋸歯がある。			
19	植栽	○	スダジイ					1.2~2cmの卵状長楕円形	葉は厚い革質で、先端は細くなり尾状に伸びる。縁は全縁または上半部に波状の鋸歯がすこしある。裏面は灰褐色の細かい垢状の毛が密生し灰褐色になる。ドングリは、甘みがあり生でも食べられる。			
20	○	○	ツブラジイ		シイノキ属	2年	袋状	0.6~1.3cmの球形	スダジイよりドングリが丸っこいことから、円ら椎と言われる。別名のコジイはどんぐりが小ぶりなところから付けられた。葉もスダジイより小さくて薄い。虫媒花なので開花期には強い香りを発散。			
21			オキナワジイ					1.2~2cmの卵状長楕円形	琉球列島に分布するスダジイの亜種。堅果が大きく、食用になる。シイの実ご飯、かゆ、おじやなどに利用。材は、船材・薪として用いられた。別名はイタジイと言い、土壌が浅い環境では板根を発達させることによる。			
22	植栽	○	マテバシイ					1.5~3cmの長楕円形	どんぐりは渋みがなく食べられるが、シイの実ほどおいしくはない。葉は枝先に集まる傾向があり、らせん状につく。厚い皮質で先端は短くとがり鋸歯はない。			
23	○	○	シリブカガシ		マテバシイ属	1年	とげ状	約2cmの楕円形	名前は、ドングリの底がへこんでいることから、尻深の名がつけられたと言われている。唯一、秋(9~10月頃)に開花する。葉は厚い革質で、先端は尾状に短く伸び、全縁または上部にわずかに鋸歯がある。			
24	○	○	クリ					クリ属	落葉樹	殻斗の中に堅果が3個	多くの品種がつくれ、秋の味覚として有名。野生のシバグリは実が小さい。どんぐりは長い刺のある殻斗(いが)に包まれる。枝にクリタマバチが付き虫えいをよくつくっている。葉の鋸歯の先端まで葉緑素がはいっている。	
25		○	オーク		外国のナラ類やカシ類(どんぐり)の総称 約300種類					海外でもドングリを干してパンにするなど食料として利用されていた。建築材としても利用され、15世紀ごろから燃料として使われ、オークの森は少しずつ消えていった。平和公園にはオウシュナラ(ヨーロッパナラ)がある。		